

人工飼育



① 巣の中の子ウサギ



②人工哺乳



③ウサギ用ミルク



④お尻を拭いて排尿

ウサギの授乳は1日1～2回、2～5分と短時間でそれ以外は巣から離れているので、育児放棄しているかどうかはよく観察して判断しなければなりません①。子ウサギが巣穴から出てきている場合、一度は巣穴に戻してみてください。それでも迷い出してしまう場合や、同腹のウサギの様子もおかしい場合は、人工哺乳を開始しましょう②。

人工飼育の注意

最も重要なのは温度管理です。ペットヒーター等で30度前後に保ち、保温して下さい。

人工乳は市販されているウサギ、モルモット用の小動物用ペットミルク③(ワンラック ペットミルク小動物用など)を与えて下さい。

ミルクは、体温と同じ 39～40℃に温めて哺乳瓶で少しずつ飲ませます。うまく飲めないときはミルクの温度を調整したり哺乳瓶を注射器やきれいに洗った醤油さしを使用してみましょう。

飲ませた後は必ずぬるま湯で湿した布やティッシュで陰部周辺を刺激して排尿を促します④。1回の授乳量は、体重の20%くらいを目安にしてください。

毎日、体重を測定して増加しているかを確認してください。増えていない場合は、哺乳回数を増やしたりミルクの種類を変更してみましょう。

生後 3～4週ごろから柔らかい草や小さくしたペレットを離乳食として与えてみましょう。徐々にチモシーなど今後の主食となる牧草を加えていきましょう。

学校での注意事項

人工哺乳は緊急処置です。出来る限り親に育児をさせましょう。巣穴の中を見たり、子ウサギに触れることも極力避けてください。育児放棄をさせないために、出産後はオスウサギを別に移し、母親にストレスを与えないようにしてください。

キーワード：人工乳・保温・育児放棄